

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	法学部
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものである
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. カリキュラム等の教育内容についての不断の適切な見直しを可能にする教育組織のあり方を検討する。	→「研究室会議とコース会議との検討項目ごとの連携状況」「TA数と学習相談処理件数」	B	A	A	A	/
2. 学術の進展や社会的要請に対応できる教育内容の実現のための教育研究組織のあり方を検討する。	→「実務家講師数と担当科目数」「日本人ないし外国人の客員教員招聘数」	B	B	B	B	/
3. 教員と学生の組織である「法政学会」の一層の活性化のための方策を検討する。	→「法政学会活性化のための検討状況」	C	B	A	A	/
4. 教育研究組織の妥当性をチェックする仕組みを構築する。	→「外部講師との意見交換会の開催状況・意見交換の内容」	C	C	B	B	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2012年度に実施にうつされた新カリキュラムの検討過程において、拡大カリキュラム委員会におけるカリキュラムや教育内容についての議論が活性化するとともに、拡大カリキュラム委員会の議論を受けた各研究室会議、各コース会議での検討も充実したものとなりつつある。
目標2	実務家講師数と担当科目数は、2012年度では22科目延べ80名となっている。総務省から派遣を受けている任期制教員の採用、弁護士、司法書士、公認会計士、県等の行政職員、地方議員、NPO関係者、メディア関係者などの講師採用に加え、ゲストスピーカーとして市長・議員等の政治家、外交官等も積極的に迎えている。「日本人ないし外国人の客員教員招聘数」は伸長しているとはいえ、意識的努力が求められよう。
目標3	法政学会の体制などの見直しについては、2011年度における教授会ならびに法政学会常任評議委員会での検討を経て、2012年度に一定の実現を見た。学生の自主的な学術研究活動の活性化のための方策等については、引き続き検討が必要であろう。
目標4	「外部講師との意見交換会」については、2012年度もフランス語非常勤講師、本学司法研究科教員、英語非常勤講師との間で実施され、法学部と司法研究科との連携強化や英語習熟度別クラスの導入など重要な事項についての説明や懇談の場ももたれた。しかし包括的な形での非常勤講師への意見聴取の取り組みは行われていない。
備考	